２００５　イタリアスプリングキャンプレポート　　1

期日　２００５年3月２４日～４月４日

参加メンバー　三井千葉ＳＣJY　１５名（１９９０年度生まれ）

ヴェルディ相模原　　３名

多摩大目黒中　　７名

引率　中村　薫

三井ジュニアユースがイタリアへ遠征を始めて７年（２００５年当時)。１９９８年の第１回の遠征に千野代表を団長に行ったことを昨日の事のように思い出す。

今回は私の引率となったが、約６年間の間に習志野高校でのイタリア３週間合宿、流経柏高校での２週間以上の九州遠征と、長期の遠征や一人での引率の経験が増えたため、１９９８年当時ほどの不安と緊張は無かった。

出発当日は夕方の便だったので、用意に余裕ができてバタバタせずにすみ、落ち着けて夕方出発は好印象だった。キャセイパシフィック航空機で香港経由、１５時間近くかけてようやくローマに到着した。イタリア時間にて２５日の早朝、セルジオ氏やジャンパオロ氏といった懐かしいメンバーに久々に会い、イタリアに来たことを実感する。

早速同行していたウイングス習志野チームと分かれて、ヴェルディ相模原・多摩大付属目黒中の選手と共に大型バスで今回のキャンプ地・グアルデアに向かう。空港から約３時間かかり、選手たちは、最初は初めて見る景色が物珍しかったのか元気があったが、着く頃には全員が寝ていた。グアルデアに着いてすぐに役所へ訪問。町中に大会のポスターや垂れ幕があり、大きなきちんとした大会であることに驚いた。ホテルに移動してチェックインをするが、これがやたらと時間がかかる。『イタリア人は、<ものを創りだすのは上手いけど、物事を要領良くこなすのは上手くない>』、とイタリア通の知り合いの方が言っていたのを思い出した。そんなことは無いと思うのだが・・・

パスタで昼食の後、慌ただしく開会式会場へ移動。これがすごく盛大で身が引き締まった。

開会式終了後、即グランドへ移動して大会の第１試合・ユベントスアカデミーウィピタル戦。選手達はユベントスの名前と、相手選手の身体の大きさにかなりビビっていたが、終わってみると高森哲也の４得点を含む１０点をとり快勝だった。よく聞いてみるとユベントスのスクール支部で本家ユーベの下部はものすごく強いらしい。試合登録選手が１８名だったこともあり、相模原と目黒の選手を出場させてあげられなかったのが残念だった。

次に行われた、ブタペストｖｓパドバ（イタリア・当時セリエA）戦はかなりレベルが高く、ハンガリー（ブタペスト）の選手の技術の高さ、パドバのパスのコンビネーション、ＣＢの強さ・巧さと見るものが多かった。

翌日の午前中は、前日出場しなかった選手のトレーニングを体育館でジャンパウロ氏に行ってもらう。午後は三井の選手が大会のテルナーナ戦（当時セリエ B)、その他の選手が練習試合と 2 か所に分かれた。

三井所属選手以外の試合には通訳の国木君が帯同してくれた。今回、私が心配だったことは三井以外の選手の大会期間中のスケジュールだった。なんとか 2 日目に試合をできたのは良かったが、選手を貸し出してテルナーナ戦の控え選手が少なくなり、激しくこられて試合も荒れて怪我人が出てしまい、やりくりが大変だった。結局０－１で負けてしまい、次の 3 戦目もリーグ戦なのにＰＫ戦がある大会規定によりＰＫ負け。グループで 3 位になってしまった。得失点ならばトーナメントに進出できていただけに痛いＰＫ負けだった。
テルナーナ戦や 3 戦目のアメリーナ戦は、今年のチームを象徴するような 1 点に泣く試合でとても残念だ。又、大会期間中好調の波を持続できないのも弱点なので、是非克服してもらいたい。

今回はジャンパウロ氏に 3 回、セルジオ氏に 1 回練習してもらう機会をつくってもらったのだが、やはり工夫がされていてとても面白かった。特に判断の要素を伴う技術トレーニングはとても参考になった。今後、他学年の選手にも練習してもらい試合で生かせるようになってもらいたい。

久々にイタリアのチームと対戦してみて、5 年前に試合をした時よりも選手の技術レベルが上がっているように感じた。パスを繋いでいく感も以前より高まっている。これからの遠征がとても楽しみだ。
しかし体格の差はいかんともしがたい。イタリア人はヨーロッパの中でもさほど大きくはない方だが、それでも我々よりかなり大きく、身体の厚み等のフィジカル面で圧倒される場面も多い・・・
この体格差を埋めるには、日本人の技術レベルが、私が３年間過ごしたブラジルを凌ぐ位のレベルにならないと埋まらないのではないだろうか・・・？
そんなことを考えていると、新たな目標が生まれモチベーションが湧いてきた。
柔らかなボールタッチ、巧みで正確なボールコントロール。高い判断力、豊富なイマジネーション。そして勝負にこだわる気持ち！ブラジルの技術とセンス、個人戦術と攻撃能力と芸術性プラス、イタリアのチーム戦術、グループ戦術、対戦相手に対するその試合の戦術、そして守備。これらを融合させ、良い選手、良いチームづくりにこだわってやっていきたい。イタリアとブラジル、両国の選手に共通する強い闘争本能、勝者のメンタリティーを少しでも身に着けてあげさせられたらと強く感じた。

今回初めて大会に参加し、真剣勝負に近い試合を経験したが、とても良い経験になった。グアルデアも町を挙げて歓迎をしてくれた。選手たちは歓迎レセプションや交流ディスコパーティーに慣れておらず退屈している場面もあったが、今後ありがたみがわかる日が必ず来るだろう。大会に参加したためセリエの試合観戦ができなかったり、イタリア人コーチのトレーニングが少なかったのは残念だが、大会に参加したため仕方がなかった。

観光は中田英が活躍したペルージャとローマ市内に行ったが、ペルージャは一度行ってみたい町だったので嬉しかった。食事はほとんどレストランで食べたので、美味しく満足のいくものだった。レストランの人たちがとても親切でそれも良い思い出になった。違うチームのほぼ初対面の選手の面倒を、しかも海外でみる苦労も自分にとっては本当に良い経験になった。前回の習志野高校遠征時に大変だった通訳の問題も、今回は国木君がとても良く頑張ってくれて助かりました。

とても良い遠征にしていただいた関係者の皆様と、何よりも今回の遠征の趣旨にご理解いただいて選手を送り出していただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

選手たちはこのイタリアでの貴重な経験を生かして今後、今以上に選手としてだけでなく学生としても良い時間を送り、人間的に成長してもらいたい。語学に興味を持ち、将来国際人として活躍する子も出てくるようにと願っています。期待しています。

三井千葉サッカークラブ　中村　薫

＊２００５年当時の報告書に訂正・加筆したものせす。